

東日本大震災救援募金会計 総額 1,247,542,992 円

国内 876,323,348 円 海外 371,219,644 円 2014 年 6 月 30 日現在

東日本大震災救援対策委員会会計、東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書（単位：円）

	総合計
	2011 年 3 月 12 日 ～ 14 年 6 月 30 日
【収入の部】	
繰 入 金	50,000,000
海外募金収入 *1	371,219,644
国内募金収入	876,323,348
集会等参加費	266,327
雑収入	239,085
繰入金収入	159,800,000
長期借入金収入	280,000,000
長期貸付金回収収入 *2	118,153,629
当年度収入合計 (A)	1,856,002,033
前期繰越 収支差額	
収 入 合 計 (B)	
【支出の部】	
救 援 金 *3	225,230,340
会堂牧師館再建補助金	415,348,429
見 舞 金	1,943,000
委 員 会 費	7,359,411
渉 外 費	1,657,329
人 件 費	83,580,130
事 務 費	61,906,831
活 動 費	12,885,835
車 両 費	11,450,085
建 物 費	13,241,982
繰入金支出	159,800,000
長期貸出金支出 *4	447,556,129
積立て預金支出	50,767,539
救援対策基金戻入金	50,000,000
長期借入金返済支出	70,000,000
当年度支出合計 (C)	1,612,727,040
当年度収支差額 (A)-(C)	243,274,993
次期繰越収支差額 (B)-(C)	

* 1 海外募金収入		
2014.4.28	愛理国際病理中心（台湾高雄日本語教会 牧師：林田義行）	25,000
2014.5.29	Mutsumi Ueno EAST JAPAN DISASTER RELIEF PROJECTS	825,490

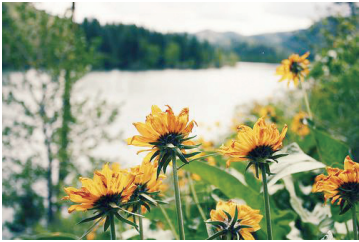
* 2 長期貸付金回収収入 （会堂牧師館再建貸付返済金）		
2014.4.7	安積教会	500,000
2014.5.16	角田教会	170,000
2014.6.13	岩沼教会 *完済	14,000,000

* 3 救援金		
2014/4/3-6	2014 年 4/3 ～ 6「第 2 回 こひつじ キャンプ in 台湾」	2,287,736
2014/5/3-5	5/3-5 第 11 回 こひつじ キャンプ	721,620
2014.5.30	盛岡大学 被災学生奨学金 500 万円	5,000,000
2014.5.30	尚絅学院大学 被災学生奨学金 500 万円	5,000,000
2014.6.16	2014 年 5/3 ～ 5 第 11 回 こひつじ キャンプ（東京 YMCA 山中湖センター）	1,084,696
2014.6.24	エマオ仙台スタッフ人件費折半分（2013 年度分・2013 年 4 月～ 2014 年 3 月）	5,779,225

* 4 長期貸付金支出		
2014.6.16	アジア学院チャペル建築資金	9,000,000

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表（単位：円）
【2011 年 3 月 15 日～ 2014 年月 6 月 30 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	153	6,331,398
奥羽	176	6,703,218
東北	87	3,564,427
関東	1,043	62,776,445
東京	1,963	219,824,000
東京教区	17	5,217,591
東京・東	329	31,640,477
東京・西南	533	85,202,708
東京・南	200	33,065,667
東京・北	348	26,351,351
東京・千葉	536	38,346,206
西東京	844	83,249,783
神奈川	664	57,005,371
東海	640	190,918,823
中部	720	72,966,125
京都	102	10,494,040
大阪	543	38,123,145
兵庫	118	10,770,220
東中国	123	6,735,532
西中国	212	8,398,594
四国	416	19,886,172
九州	414	21,074,349
沖縄	112	2,627,304
個人・他	1,263	54,874,402
総計	9,593	876,323,348



日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 14

2014 年 7 月 23 日発行

169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18-4F T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄

教団支援活動の今後



6 月 20 日の東日本大震災救援対策本部会議にて福島教会の再建計画を受けて、5 千万円の支援と 2 千万円の貸し付けを承認いたしました。重要有形文化財として福島の人びとに愛された会堂の面影を伝える木造での再建です。会堂を失った信徒の皆さんだけでなく、町の人びとにも大きな励みとなり喜びとなることと思います。これでほとんどの教会が申請し、それに対応したことになります。

教会堂・牧師館再建・復興工事支援については、国内献金 10 億円の内、5 億円を用いるとの試算で行われましたが、現在約 4 億 7 千万円弱の支援を決定しています。今後支援申請を出される教会が 3 教会ほどと考えられますので、5 億を少々超える支援になるのではと思っていますが、要望にお応えできると思います。国内募金の現状は、6 月末時点で約 8 億 7 千万円です。故人の遺産の内、1 億 5 千万円を献げてくださった教会もあって、国内募金は、献金期間来年 3 月には、概ね達成すると思います。奥羽、東北、関東の各教区のご協力と皆様の祈りとお支えにより、被災諸教会への支援が滞りなく行えますことに、改めて感謝申し上げます。

地域支援（人道支援）については、多くの支援団体が、活動を終了していく中、教団に対しては今まで支援の対象ではなかった地域からの支援要請があるなど、地域から高く支援を評価いただいています。これも現地スタッフとボランティアの方々の真摯な活動の賜物です。支援が農業支援や漁業支援という経済活動の支援になっているのではないかとの危惧もありますが、「お茶っこ」等の被災者の心に寄り添う活動は、仮設住宅での生活を余儀なくされている方々に喜ばれており、大切な働きとなっています。また、原子力発電事故に伴う放射能被害を受けている子どもたちを対象としての短期保養プログラム「こひつじキャンプ」も好評で、参加者希望者が応募を超えており対応に苦慮するところ です。

今後も支援活動は、続きますが、海外からの資金等を含めての支援もあり、来年 3 月を超えての支援も続けられることとなります。もちろん、支援はあくまでも自立への支援であって、いつまでも続けて良いというものではありませんから、教団として、支援活動のふさわしい終焉を考えるべき時に差し掛かって もいます。

皆様の熱き祈りとご支援を感謝いたします。何よりも教団の活動を祝福して いくくださる神の栄光を讃えます。

救援対策本部委員

愛宕町教会牧師

北 紀吉

ニューフェイス紹介！

東北教区被災者支援センター エマオ・石巻 平田信之さん



2014 年 4 月から「東北教区被災者支援センター エマオ・石巻」に教団派遣専従者として働くことになりました平田信之です。西東京教区阿佐ヶ谷教会の信徒です。被災者支援活動とは縁遠い社会人生活を送ってきており、外から支援活動を眺めておりました。この度、このような形でエマオでの御用に用いられ、感謝と喜びを持って励みたいと思います。

復興支援という大きな働きの中で、小さな器ではありますが、主がこの器を用いて下さり、この活動に必要な備えを与えてくださることを信じ、被災地の皆さまに寄り添い、祈りつつエマオの活動に参画して行きたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

※平田さんは阿佐ヶ谷教会の教会学校小学科主任教師で、聖歌隊などの奉仕もしています。このたびは妻子を東京に残しての単身赴任です。（大村 栄）

関東教区の被災教会を訪ねました

震災からの復興を機会に

6月16日（月）に関東教区の東日本大震災被災教会の再建状況を視察しました。関東教区では30ほどの教会が被災しましたが、その中でも大きな被害を受けた教会4教会を訪ねました。これらの教会は震災からの復興を機会に、様々な課題と向き合うことになり、それと真剣に取り組んでおられます。

関東教区議長の秋山徹牧師（上尾合同教会）と、教区支援委員会総括主任の飯塚拓也牧師（亀ヶ崎教会）が案内してくださいました。お二人はすでに何度も各教会を訪問され、よく相談に乗っておられることが、行って分かりました。教団の「東日本大震災救援募金」が、被災教会復興のためにどのように用いられ、今後どのような課題があるか、その一部をレポートします。

大村 栄（救援対策本部委員／阿佐ヶ谷教会牧師）

宇都宮上町教会（澤田武牧師、澤田直子牧師）

澤田牧師夫妻と役員の國吉兄から状況を伺いました。同教会では震災によって築45年の2階建て会堂の外壁が一部崩落し、2階にある礼拝堂内部の壁も一部崩落しました。1階は学校法人みふみ幼稚園の保育室なので、2階の礼拝堂部分を撤去し、さいわい広い敷地があるので、平屋の礼拝堂を敷地内に新築する方向で進んでいました。

しかし学校法人の幼稚園と宗教法人の教会が同じ建物の1階と2階にある状況ゆえに、修繕や建築のための法的手続きなどの困難さがあり、また幼稚園は近く認定こども園への移行も控えており、資金の問題もあって、建築の着工は遅れていました。



最終的には、2014年5月の教会総会で、会堂を敷地内の別の場所に建築する計画が承認され、建築確認申請も提出して、いよいよ着工へと踏み出しました。教団からの支援金と貸出金も活用して頂きます。

澤田牧師は、着工までのこの遅れが、それによって教会内でじっくり話し合い、幼稚園の将来も考え、資金計画も立てて、「むしろ力をたくわえる時間となった」と言っておられます。

建物工事費	85,832,458	自己資金	25,000,000
その他	6,667,542	教団支援金	35,000,000
		教団借入金	32,500,000
合計	92,500,000	合計	92,500,000

宇都宮教会（木村太郎牧師）

木村牧師と3名の役員方からお話を聞きました。宇都宮教会は2階の礼拝堂の漆喰天井が大幅に落下し、礼拝は1階の集會室で守りました。築55年の老朽化した会堂は、構造上の問題があり、本来建物全体を守るべき梁や柱が一部入っていないことが判明し、全面的な建て替えが必要となりました。クリスマス礼拝等に安心してお招きできない状態でした。

震災の少し前に、牧師館を別の場所に購入したばかりで資金面の不安がありましたが、思い切って新築を決意し、教団への支援と借入を要請しました。



その後、どういう教会を建てるか、53回にのぼる建築委員会を開き、建築士にも来て頂いて話し合いを重ね、会堂見学にも出掛けました。それらの歩みの中で、宇都宮教会の目指す信仰の方向を改めて確認することが出来、過去に体験した教会内の分裂の問題も克服が与えられ、さらには20年来の隣家との不仲も解消されたそうです。

6月15日（日）に新会堂の献堂式が行われ、私はその翌日に伺いました。前日の大きな喜びの余韻を感じ、この教会は震災からの復興を機会に、改めて教会の使命に目覚め、成長を体験したのだと思います。

建物工事費	120,093,710	自己資金	16,655,413
その他	9,293,632	教団支援金	64,470,000
		教団借入金	39,500,000
		外部献金	5,731,929
		会堂共済等	3,030,000
合計	129,387,342	合計	129,387,342

佐野教会（三浦国昭牧師）



19世紀末から20世紀初頭にかけて、「足尾鉍毒事件」で国会に問題を提起した田中正造がこの町の出身者です。佐野教会はその田中正造の活動を支援する全国のキリスト者のセンターだったそうです。1934年に建てられた現会堂は、当時の面影を偲ばせる建物で、国の登録有形文化財になっています。

2階の礼拝堂は、階段が急で危ないので礼拝は1階で行っており、2階は田中正造の記念ホールとして、様々な展示物が置かれています。震災ではその2階の天井や壁が何ヶ所も崩落し、応急的処置でしのいでいます。そのための費用400万円ほどは三浦牧師が調達し、さらに200万円を借りて追加の工事をされたそうですが、今からでも、教団からの支援を用いて頂きたいとお伝えしました。

震災関係の修繕にとどまらず、田中正造を記念する佐野教会の歴史的価値を発揮するためには、相当の費用が必要だろうと感じますが、教会自体でそれを実行するのは困難でしょう。震災からの復興を機会に、長年の懸案であった課題に直面した教会は、ほかにもあります。そしてそれを自力では対応しきれないケースも少なくないでしょう。そんな教会の一つが佐野教会であることを感じました。

伊勢崎教会（遠藤尚幸伝道師）

伊勢崎教会の旧会堂は、田中忠雄画伯の設計により1938年に建てられた歴史的な建物でした。伊勢崎駅を降りてすぐ目の前にある、町のシンボルの教会でした。震災では会堂内部の漆喰の壁が落ち、屋根の重さで壁が外側に傾く状態でした。余震によりその傾きが増し、一方の壁は8度、他方は4度、それぞれ外側への傾きが見られ、「半壊」判定で立ち入り禁止となりました。主日礼拝など、教会の諸活動は別棟の教育館にて行うようになりました。

旧会堂を修繕するには、建て替えに近い費用を要することが明らかになりました。そんな最中に前任牧師が健康上の理由で辞任され、2012年6月から牧師のいない状態となりましたが、同じ6月に、代務牧師を議長とする臨時教会総会で、新会堂の建築を可決しました。

関東教区三役の指導の下で教団からの援助と借入を進め、木造1階建ての、旧会堂のイメージを生か



した新会堂の設計が出来上がりました。会堂建設のためにと続けていた献金もあり、無牧の中で準備が進められていきました。新会堂と牧師の両方を待ち望みつつ経過しておられたそうです。

2013年4月に新卒の遠藤伝道師を迎え、一気に建築は進みました。7月に起工式、11月に完成、12月に引き渡し、クリスマス礼拝は新会堂で。そして2014年3月23日、石橋秀雄教団議長の式辞による献堂式が行われました。無牧の苦難の中でも、「思いが一致した時に、不可能が可能になることを経験した」と役員の方の竹前兄、臂兄は語っておられました。

建物工事費	73,065,870	自己資金	14,790,950
その他	725,080	教団支援金	35,000,000
		教団借入金	24,000,000
合計	73,790,950	合計	73,890,950

最後に、それぞれの教会が受けておられる教団からの「借入金」は、返済期限20年、無利子ですが、その返済には今後も多くの努力が必要となります。そのことを皆さまに覚えて頂きたいと思ひます。その返済がすべて終わる時が、本当の「震災からの復興」の時なのかも知れません。その時まで教団は全体で祈りを続けていきたいと思ひます。